

## 令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立芙蓉小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

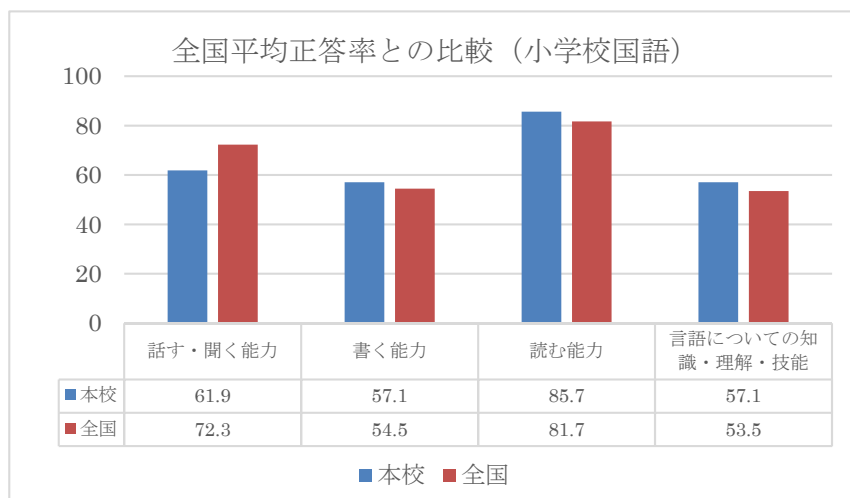
### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果



4領域のうち3領域で全国平均正答率を上回った。記述式の問題は、全国平均正答率を上回った。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる記述式の問題の正答率は、全国平均より高かった。一方で、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をすることができるかどうかを選択する問題の正答率は、全国平均よりかなり下回っていた。話し合い活動の場を多く経験させることに加えて、互いの発言の意図を理解することの大切さに気付かせる必要がある。

##### 書く

・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く記述式の問題の正答率が全国平均より高かった。一方で、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述方法の工夫を捉える選択式の問題に課題がある。教材文等を利用して記述の仕方の工夫を捉え、その目的や効果などを考える学習が必要である。

##### 読む

・目的に応じて、文章全体を概観して効果的に読む選択式の問題の正答率は100%と高かった。一方で、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかどうかの選択式の問題に課題がある。目的に応じて、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかを明確にして読むことができるようにする必要がある。

##### 言語事項

・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題の正答率が全国平均より高かった。一方で、同音異義語に注意して、漢字を文中で正しく使うことに課題がある。児童が自分で書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるようにする必要がある。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

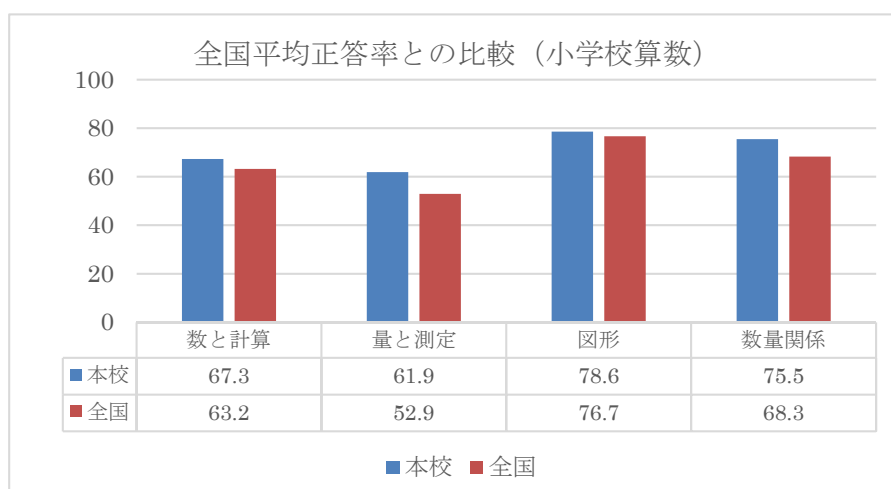
- 授業をはじめ、行事等でも、考えを表現し、意見交流する場を意図的に設定し、互いの考えの共通点や相違点を明らかにしながら自分の考えを広げたり、深めたりすることにつなげます。
- 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方を工夫して書く指導をします。
- 同音異義語に注意して、漢字を文中で正しく使う指導を工夫します。

##### 【ご家庭では】

- 音読が基本になります。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味の理解に役立ちます。言葉の力をつけることは、全ての教科の学力向上に不可欠です。毎日、音読を聞いてあげてください。
- 一緒に読書をしたり、お子さんとの会話を楽しんだりしましょう。話は最後まで聞き、語尾まではっきりと話すことが大切です。自然な形で親子の会話が増えるよう心がけてください。

## 2 算数

### (1) 結果



すべての領域で全国平均正答率を上回った。特に「量と測定」は、かなり上回った。

### (2) 成果と課題

#### 数と計算

・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は、全国平均より高かった。しかし正答率は、42.9ポイントと課題がある。見いだしたことがほかの数値の場合でも成り立つかどうかを確かめることができるようにすることが必要である。

#### 量と測定

・2つの棒グラフから資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できるかどうかをみる問題の正答率は、全国平均よりかなり高かった。

#### 図形

・台形について理解しているかどうかをみる問題の正答率は100%と高かった。図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成することができるかどうかを見る問題は課題が見られた。色板などの具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにすることが大切である。

#### 数量関係

・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は100%と高かった。一方で、場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断することができるかどうかをみる問題は課題が見られた。問題を自ら発見し解決するために、事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、解決過程や結果を振り返り、意味付けたり、活用したりすることができるようにすることが大切である。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 朝のスキルタイム「チャレンジタイム」に継続して取り組み、基礎的・基本的な四則計算の定着と、単元内容の確実な習熟をめざします。加えて、活用力へつながらる応用問題も計画的に取り入れます。
- 授業の中で、図や式を関連付けて自分の考えを分かりやすく説明し合うペアやグループ活動を位置付け、論理的に考える力と表現力を育みます。

#### 【ご家庭では】

- ドリルやプリントの宿題、テストなどに目を通し、お子さんの成長や努力を見つけ、励ましや称賛の言葉をかけてください。お子さんが今学習している内容や理解の程度、問題を解くのにかかる時間などに関心をもつことは、子どもたちの「やる気」につながります。
- 学習したことが自分の生活の中につながったとき、算数への興味・関心がさらに高まります。生活場面で算数を使う便利さや面白さを、お子さんと一緒に意識して探してみてください。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	100	86.7
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	85.7	38.9
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	85.7	58.7
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか	42.9	50.1
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	57.1	30.1
学校のきまりを守っていますか。	57.1	46.7
人が困っているときは、進んで助けていますか。	71.4	40.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	71.4	85.0

朝食・起床・就寝については全国平均をかなり上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムはできていることが分かる。これは家庭の協力なしにはできないことであり、保護者の皆様に感謝します。

挑戦心や規範意識についても本校の児童は全国平均よりも良好な結果が出ている。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	57.1	33.1
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「3時間以上」	0	12.4
「2時間以上、3時間より少ない」	0	16.9
「1時間以上、2時間より少ない」	57.1	36.8
「30分以上、1時間より少ない」	42.9	24.1
「30分より少ない」	0	7.6
「全くしない」	0	2.3

家で自分で計画を立てて勉強をしている児童は、全国平均より多い。家庭学習については、「1時間以上、2時間より少ない」児童が、半数以上いる。しかし、1時間未満の児童が4割程度と、家庭学習の時間が短い児童もいる。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するよう指導をしていきたい。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。中・高学年では、加えて自主学習（自学）にも取り組みます。自学ノートの学習の仕方に慣れさせ、手本になるノートを掲示するなどして、さらに発展した内容の自学ができるよう指導を重ねます。
- 年間2回、全学年で実施する「Fuyo 夢プロジェクト」週間で、自分の生活・学習習慣を見直し、向上させることにつながるようにしていきます。取り組んだ結果を学級通信等で家庭にお知らせし、家庭との連携を図りながら効果が上がるようにします。

##### 【ご家庭では】

- 「Fuyo 夢プロジェクト」の項目を家庭でも意識して、普段からお子さんに声をかけてあげてください。また、お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まり、望ましい習慣化が図られていきます。よろしくお祈りします。
- 芙蓉校版「家庭学習の進め方」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましましょう。低学年から少しずつ自主学習を意識させ、学校と連携して家庭学習の定着と粘り強くやり抜く力を培っていきましょう。